

# 妙たえ の光ひかり

通刊83号 復刊63号

2008年9月18日(季刊)

角田山妙光寺 発行

〒953-0011

新潟市西蒲区角田浜1056

TEL 0256-77-2025

## 蝙蝠コウモリ

ある朝台所の入口からひょっこり入ってきて、洋間の天井に張りついた。体長七センチほどの小さな体が可愛らしい。以前は夕暮れの野外や、古い本堂の奥まった薄暗い所でよく見かけたものだが、近頃は珍しくなり何か郷愁を感じる。

冬は木のうろや祠などで冬眠して、初夏から晩秋の夜に蚊などの昆虫を食べて活動する。西洋では魔女の化身として嫌われるが、中国では「蝠」が「福」に通じるとして喜ばれるという。中国説に従って一日休ませ、夕方の空に放してやった。

夕餉あと尚明るくて蚊喰鳥 山口波津女

# お盆の日のご縁

小川 英 爾

お彼岸を前にしてお盆のお話で恐縮ですが・・・。

八月に入ってお盆の棚経（たなぎょう・お盆の期間中床の間などに故人の精霊をお迎えする棚を作り、そこにお経を読み伺うこと。近頃は棚が省略されて仏壇の前に飾るお宅も増えている）に、檀信徒のお宅に伺いました。件数が多くて遠方は十日から、地元は十三日から十六日朝までの間、私と鎌田のほか東京と千葉のお上人二人から応援を受けて回りました。一日に四十件近く回るので、時計の針と競争しているかのような感じです。今年は激しい雨で涼しいのはいいのですが、一時は車から降りられないほどの強いふりもあって予定も遅れ気味、催促の電話をいただいた方もありました。

応援のひとりには千葉のお寺の息子で二十歳の青年です。五年前の中学生のときにも来て、私の後ろで太鼓をたたいて歩いたので今回は二回目です。跡を継ぐかどうか迷っているらしいのですが、父親の期待もあって今回は一人で歩いてもらいました。とは言っても経験の浅い都会の寺の息子で、しかも現在アメリカ留学中。そこで十三日午前中は慣れるために私と歩き、挨拶しながらロウソクを点け線香

を立ててお経に入るところからの実地訓練から始めました。夜は地元の角田浜。暗がりでも道もわからないため妻のなぎさが一軒づつ紹介して歩き、翌十四日も別の集落を同様にして慣れてもらいました。

三日目は朝から私の娘が運転する車で「はい、こちらのお宅だよ」と教え、一人で伺うようにしました。なにしろ田舎の道はわかりにくく、家を探しているだけで時間がどんどん経過しますから。ところが、計算上移動時間も含めて平均して一軒十五分から二十分で回らないとならないのに、一軒に三十分以上もかかっているのです。聞けば「皆さんのお話を聞くのが面白い。最初は方言が強くて聞き取れなかったのが、だんだんわかるようになってますます楽しくなった」と言うのです。すっかり予定が遅れてしまったのですが、初心者には余裕を見ておいたのでそこはなんとか。

その日の午後には事件は起きました。別の地区を回っている私の携帯電話に娘から「留守のお宅があるんだけどどうすればいい?」とかかかってきました。今日伺うことはわかっているはずだから、留守でも鍵はかけてないはずだよ。

かまわないから勝手に上がってお経を読んで、多分お布施が置いてあるはずだからそれを載いてくるように。くれぐれもロウソクの火だけは消し忘れないこと」と答えました。そして次の電話は「さっきのお宅はそうしたけど、今度は私が地図を見間違えて家を間違えたらしいんだけど、十分も経つのに彼が出てこない」というのです。

そのころその家の中ではこんなやり取りが交わされていたのです。留守のようだったので、お仏壇で読経を終えて振り向くと後ろにお爺さんが座っていました。挨拶すると、静かにそして怪訝そうに「どういうご縁で我が家に来なされた？」と尋ねられたのです。彼は「角田浜の妙光寺から来ました」と伝え、自己紹介をすると「ああ、それならうちではなくて向かいのお宅だよ」といいながら、お布施を差し出したのです。

お仏壇を見れば宗派の違うことに気がつくはずですが、そこは経験の浅い若者です。言われて初めて家を間違えたことに気付き、謝りながら、出されたお布施を固辞しました。しかし先方は「お盆に我が家に来てくれたのも何かのご縁。そもそもお釈迦様の教えは・・・」と、仏教談義が始まり、はてはこの土地の歴史から、さらに古墳から出土したという土笛を出して吹き始めたのです。彼が立つに立ってなくなつて笛の音を聞いているころ、外では娘が、前のお宅でその次のお宅が分かりにくいからと電話してくれ、お家の方が外に出て待っていてくれる手はずになっている

のにと、イライラしていたのです。

暗くなつて戻つた二人の興奮した報告を受けた私は「歴史話の好きなお爺さんって、もしかしてKさんではないか？それならその次男が父さんと中学の同級生で一番仲が良かったんだ。卒業後コックさんになって新潟市内で小さなお店を開き、何度か寄つたこともあるよ。でも二十年ほど前、出前の帰りに持病の心臓発作で自転車に乗つたまま倒れて亡くなつたんだ。それじゃKさんが喜ぶのも無理はないよ」と。娘が驚きながら「そつそつKさんだよ」と、袋から取り出して見せた戴いたお布施には、Kさんの名前とその脇に ○○（私の友人の名前）の父 と書いてありました。早速電話をかけた私にKさんは「いやいや、お盆だからこちらこそありがたかつたよ」と答えてくださった。偶然とはいえ間違えたお宅にご縁がありしかも親切に対応してもらつたことに、千葉からの彼は感激していました。きつといい僧侶になつてくれることと思います。

### ・数珠の話

数珠の形は宗派ごとに違いがあります。それが最近お参りくださる檀信徒の数珠に、日蓮宗でないものを見かけることが多くなりました。新しい檀徒が増えたことと、こうした基本的なことが世代間で伝わらなくなったことが背景にあるように思われます。そこで改めてその意味から紹介し



ます。

漢字で 数をか  
ぞえる珠 と書く  
ように、百八ある  
と言われる私たちが  
の煩惱を克服する

ため、仏様の名前やお経の言葉、お題目を繰り返し唱える  
際にそれをかぞえる用具として生まれたようです。私が昔  
アフガニスタンを旅したときに出会った人も、砂漠でアラ  
ーの神の名を繰り返し唱えながら数珠に似た物を持って歩  
いていました。キリスト教にも同様な物があると聞いたこ  
とがあります。基本的には世界中の宗教に共通する習慣の  
ようです。

お経によると珠は百八が基本の数とされ、日蓮宗ではこ  
れに親玉二個、四天四個を加えた百十四の珠を用いていま  
す（写真参照）。その材質は古くから水晶、梅など硬くて  
光沢のあるあるものが良いとされて、昨今は加えて菩提樹  
の実のほか、メノウやヒスイなど様々な宝石が使われるよ  
うになりました。単なる計算用具ではなくお参りに使う法  
具ですから、できれば長く大切に扱いたくなるようなそこ  
そこの品を選んでいただきたいと思えます。

他宗に比べて珠の数が多分長くなりますので、その持  
ち方がやや複雑です。写真のように、二重輪にして左手親  
指の根元で軽く押さえて合掌するのが基本です。さらに正

式には説明が  
長くなるの  
で、折を見て  
口頭でお伝え  
しています。  
遠慮なくお尋  
ねください。

入手される

場合は東京の  
数珠の専門店や本山の門前町等では選ぶこともできます  
が、新潟県内は日蓮宗信徒が比較的少なく、一般の仏具店  
では他宗の物しか置いていないことが多いようです。寺に  
ご相談いただければカタログもあり、ご紹介しています。  
また希望されて生前に戒名をお授けする方に、正式な形  
で生涯使っていただけのような数珠を記念に差し上げて  
います。

日蓮聖人は小松原の法難で東条景信に切りつけられた  
際、刀を数珠で受け止められたと伝えられ、いつも肌身は  
なさず持つておられたようです。最近は一種の流行でしょ  
うか、形は異なりますが若い人がいつも腕に巻いている姿  
をよく見かけます。私たちも日蓮宗の妙光寺檀徒である標  
でもあり、とりあえずなんでもということではなく、お参り  
の際の法具として正式な数珠をお持ちください。必ずや心  
が落ち着きます。



左手に持ち合掌する

## 「京住院」の造園工事に寄付

巻・内藤 至さん(九十才)



この九月で満九十歳を迎えたというが、とてもしつかりして読書とテレビで野球や相撲を観るのが楽しみだという。四年前に奥さんを亡くされ、子供がいなから現在一人暮らし。週三日ヘルパーさんに来てもらい、寒い季節はショートのステイに入所することもある。

寺から届く『妙の光』が楽しみで全部

綴っており、近所の方からも貸してほしいと言われるので、新しい号が届くと目を通してから回している。前回の河野さんの記事に感動して、貸さないでくり返し毎朝読んでいた。そこで「京住院」の仏像修復にも協力したがさらに何かできないか考え、これから始まるという庭の工事なら費用がいくらあってもいいだろうと、協力を申し出られた。八月に募参りしたときに新しい「京住院」と修復された仏像を見て、庭の完成する十月末がさらに楽しみになったという。

県の職員として三十八年間勤め、ずっと福祉関係に従事してきた。退職後も家庭相談員や心配事相談員を十年以上された。毎月の檀徒の集まりである「巻講中」に奥さんが長年入っていたので、亡くなられた後を継いで三年ほど仲間入りした

が、足腰が弱って出かけることができなくなったのが残念だという。

若いころから神社仏閣巡りが好きで、各地を一人旅した。朱印帳もたまつて、死んだときには棺に入れてくれるように近くに住む妹さんに頼んである。身延山には奥さんと三回ほどお参りしたが、それ以外は一人旅が多く、今思えば妻に申し訳ないことをしたと後悔している。

養子を迎えたこともあったが先方の申し出で解消し、自分の代で家が絶える覚悟はできた。墓は安穩廟に改葬、葬式は寺に生前契約をし、さらに河野さんに倣って財産処分も近々手続きに入るという。「心配事がないと言えばうそになります。一人暮らしは孤独感があります。この歳になると友だちも特養に入所したり、亡くなったりしてめつきり少なくなりました。仏壇の両親と妻の傍にいたいことが供養だと思ってお参りを欠かしません。両親が求めた百年前のこの仏壇も自分の亡きあと処分するかと思うと、余計寂しいですね」と語る。とてもお歳には見えないしつかりした口調が印象深い。

## 寺の動き

### \*夏の諸行事賑わう

八月一日、例年のお盆お墓参りと施餓鬼法要でした。平日にもかかわらずいつも以上に多数のお参りで駐車場も満杯。朝は出勤前にお墓参りをする方が六時前から多数来られ「涼しくて空気が清々しい」との声がありました。施餓鬼法要には新盆のお宅に直接ご案内したせいもあり、本堂に溢れんばかりで、一時は受付が混雑して行列ができご迷惑をおかけしました。来年は受付係を増員します。

これを第一日曜日に日取りを変更する案を以前から検討してきました。しかし「新潟祭り」と重なる可能性が高いことと、「昔から八月一日に馴染んでいるから」という声も多く寄せられ、当面はこのままでいくことにしました。

八月十九日の岩屋七面様の法要は、早朝から豪雨で境内の沢が増水し溢れるかと心配しました。これではお参りの方も

出かけられないし、用意した赤飯もどうしたものかと。それでも長靴を履いていく方等々、いつもの顔ぶれがそろい、岩屋に行く頃には雨もやんで無事営むことができました。

月末三十日のフェスティバル安穩も十



墓前での合同法要

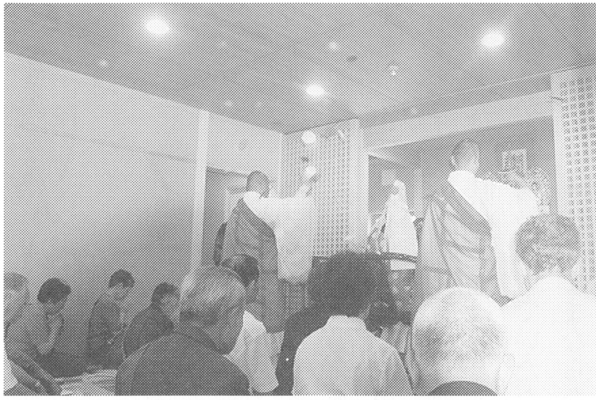


施餓鬼法要で焼香する人たち

九回目にして初めての雨。前半は怪しい雲行きの中、テントを張った院庭で二百三十名が藤田弓子さんの講演に元気をいただきました。第四部の法要を前に降り出し、急きよ本堂に会場を変更して無事終えることができました。

### \*京住院落慶法要と造園工事

「京住院」の落慶法要を七月二十一日



「京住院」の開堂供養法要



客殿大広間での祝賀会

に営みました。当日は工事関係者、工事と仏像修復にご寄附戴いた方々、役員で六十名ほどが参加。堂内に詰め合わせて法要に参列、その後客殿での祝賀会に移り完成を喜んでいただきました。  
すでに県外から法事に来られて宿泊で利用された方があり、予約もあります。どうぞ気軽にお問い合わせください。  
今後周囲の造園工事を予定しています  
が、檀徒で巻の内藤至さんから工事費用に役立ててくださいと、八百万円のご寄

附をいただきました。急ぎよ予算を増額して設計変更し、現在工事が進行中です。施工業者の都合もあり完成が十月末になりそうです。十一月三日のお会式にはご覧いただけますし、次号でもお知らせします。

### \*「杜の安穩」増設分受付中

二百七十区画設置した「杜の安穩」が六月でほぼ満杯となり、それでも問い合わせが百件近く

ありましたので、現在四十区画を増設工事中です。九月末に完成予定ですが、半分は既に予約済みです。今回で土地に余裕が無くなりますので、現行の形での受け付けは最後とします。

### \*住職の講演

時間的な都合で講演依頼は受けたくないのですが、新潟市のある委員に就任している都合上、断りきれない区役所からの依頼が続き、今後中央区、南区、江南区と予定があります。ご希望の方は基本的には誰でも参加できるので、区の広報等をご覧ください。その他にも市内の聾者の会や、日蓮宗内部の研修会もあり、呼んでいただきありがたい一方で困惑もしています。

### \*年会費

六月末の前号の配布と一緒に年会費のお知らせをしました。お陰様で順調に納入いただきました。なかに「今年の知らせが届かない」と言う方が数件あり、こちらでは全員にお届けしている記録がありますので、運送業者のミスが考えられます。他に届いてない方はお知らせください。またご都合で未納の方はお願いします。

## フェスティバル安穩報告



十九年目を迎えたフェスティバル安穩は、初めての雨で法要会場を本堂に変更するハプニングもありましたが、盛大に行われました。参加者二百三十名と昨年の五十人増。県内各地はもとより関東始め県外からも多数おいいただきましたが、銘々にご挨拶もままならない状況で申し訳ありませんでした。また準備段階からお手伝いの会員スタッフ、当日の角田浜檀徒スタッフ、そして趣旨に賛同した県外からの応援スタッフまでの合計がなんと七十名。なかにはすっかりお馴染みのアメリカ人マークさんや、住職の娘の友人で中国、韓国からの留学生四人まで手伝って、世代も国籍も多様な楽しい集まりになりました。

第一部は俳優の藤田弓子さんの予定時間を超える楽しい講演で、会場が沸きま



藤田さんの絶妙な語り笑顔の人たち

した。第二部はその見事に伸びやかな歌声からいま新潟で人気急上昇中、十五歳の女の子、酒井杏ちゃんのミニコンサ―



酒井杏ちゃんの歌声に聞き惚れる

ト。わずかな時間しか取れず後で「もっと聞きたかった」との声が多数寄せられました。販売したCDもあつという間に売り切れました。第三部は壇上の会員と檀信徒三名の体験談を中心に、ゲストの井上治代さんと住職が語りました。お三方は皆七十代ですが元気にこれから語る女性で神奈川の杉山さん。多くは語らないのですがこれまでの人生を味わい深く醸し出



した男性で新潟の高橋さん、野沢さんあ  
りがとうございました。

第三部の後半からパラパラと雨が降り  
出し、第四部の安穩法会は初めて本堂に  
会場を変更。スタッフ、参加者皆さんの  
迅速な対応でスムーズに会場設営もで  
き、予定時刻に始まりました。法要には  
留学生が中国語で一緒にお経を読む場  
面もありました。結果これまた「野外も



檀徒会員による語り合い

いが初めて  
の本堂もお

経が響き渡  
り、散華の  
花びらが降  
りそそいで  
最高に感激  
した。これ  
からは野外  
と本堂を隔  
年で会場に

してはどうか」という感想まで。同様の  
感想と「スタッフのテキパキした対応に  
感謝します」という声を多くいただきま  
した。

一方で慣れない雨対応と連絡不備で、  
献灯の大ロウソクが一部で十分燃え尽き  
ないままに消して撤収するといったミス  
がありました。他にも納入業者の不手際  
で並べる作業に手間取ったなどの理由が  
ありますが、深くお詫びさせていただき  
ます。燃え残ったロウソクはお彼岸の中  
日に安穩廟、杜の安穩で灯す予定です。  
またご高齢の方が少しでも楽に過ごせるよ



休憩時間にくつろぐ人たち

うな策はないか等、改善点を検討します。  
来年はとうとう二十年目を迎えます。  
会員スタッフを中心に今年の反省会と次  
回の準備会を近々開く予定です。来年も  
またの方、あるいは初めての方、ぜひお  
出かけください。また後日「参加したく  
ても体長を崩して行けなかった」という  
丁重なお手紙をくださった方もありま  
す。強制でも義務でもありませんので、  
どうぞご心配なく。



本堂での安穩法会

## お会式えしきの案内

日蓮聖人のご命日（十月十三日）の法要を、お会式えしきといい、今年には七二七回忌になります。妙光寺は日蓮聖人が佐渡に島流しの途中、嵐のために角田浜に漂着されたご縁で建てられました。往時を偲ぶ法要にご参列ください。

併せて、希望者に生前戒名をお授けする式を行います。法話は今年話題となったチベット仏教の指導者ダライラマとご縁があり、インドのラダックでチベット仏教を修行された野口法蔵師をお招きしました。

### 十一月三日（祭日）

午前十一時 日蓮聖人第七二七遠忌お会式法要

第七回法号授与式

昼十二時

おとき

午後一時

記念法話 野口法蔵 師

新聞社の報道カメランンとして渡ったインドで子供たちの無邪気な笑顔にふれたのを機に、カメラを捨てて僧侶の厳しい修行にはいる。現在国内各地で断食道場を主宰するなど、精神と肉体が健全であるよう指導を行う。著書に「人間の頂」PHP研究所他。

### 参加費用

お一人三千元（他にお気持で野菜、お米、お明し等々お供えくださる方歓迎です）

### 申し込み

準備の都合上、十月二十五日までに地区世話人か、直接妙光寺まで。費用は当日受付でお願いします。送迎バスはありません。

## 生前戒名をお授けします

戒名とは仏様の弟子となった証として生前につけるのが本来で、葬儀の際に戒名をつけるというのは間に合わせです。日蓮宗では法号と呼びます。世間では戒名料とか称して、お金で買うがごときに思われていますが、妙光寺ではこれまでもこれからも経費以外は無料です。

ただし檀徒であることが条件です。安穩会員でも跡継ぎの有無に関係なく申し込みは可能ですが、その後は檀徒（年会費一万円）になっていただきます。息子がいる等次の世代がいた場合、次世代の本人が安穩会員か檀徒になるかを選択します。檀徒を強制することはありません。

十一月三日（祭日）午前九時集合。研修を受けた後、式に参列。午後三時ころ終了。礼服までは要りませんが、男性でしたら背広にネクタイ程度でどうぞ。

式の前の研修とは、日蓮宗の基本についての住職のお話です。費用として三万円を当日お納めください。戒名とお名前を刺繍した略式の輪袈裟（わけさ）、それに数珠を記念に差し上げます。戒名にはお名前の一文字かご希望の文字を入れます。

申込みは準備の都合上、十月十五日までをお願いします。折り返し詳しい案内書をさしあげます。体調が悪くてお寺まで行けないという方はご相談ください。

「若者のちから」

小川 なぎさ

近くの上堰潟公園には今の季節、夕方になると池の中洲が真っ白になるほどの

サギの大群を見ることが出来ます。犬の散歩でその光景を見て、どこから来たのだらうと不思議に思っていました。そうしたら昨日のニュースでサギが渡り鳥であることを知りました。およそ三千羽のサギのうち八割がもうすぐ南に渡ってしまうのだそうです。壮観な眺めなのでおもしろいですよ。夏が終わり、ようやく季節の移り変わりを感じる余裕が戻ってきました。涼しくなるのは心にも体にもなにかほっとするものがありますね。

私たちの娘四人のうち二人は八月四日と九月十日生まれなのですが、毎年私はその日を忘れていてかわいそうなことをしています。(もともと記念日というものにあまりこだわらない性分というのもあり、娘たちからはダメ母ちゃんと言われますが。)でもこの不出来な私が今年

の夏は娘たちにずいぶん助けられました。

安穩の供養祭でおなじみの鎌倉の松脇上人が十五年以上前、幼い娘たちと本当に良く遊んで下さったことを思い出しました。そのとき「小さな子供と遊ぶとエネルギーをたくさんもらえるのですよ！」と汗をふきながらお話なさっていたことを、当時は子育てでくたくたにな

っていた私は理解することが難しかったのですが、今年は心底そのことを実感しました。というのも、娘たちがそれぞれに若い友人をたくさん連れて来てくれたからです。二週間も泊り込みで手伝ってくれた男子学生、綺麗でかわいい女子大生、私を日本のお母さんと言ってくれた韓国と中国の留学生、他にも大学のゼミの研修を兼ねてきてたくさん働いてもらった元気のよい学生グループ。住職の友人の次男で、息子がいたらさぞかわいい

のだろうなと思ってしまった二十歳の青年僧。夏の妙光寺は人使いが荒い！必ず何か手伝われるよと言って来てくれて、気持ちよく滞在してくれた若者から大きな力をもらいました。

彼らの自分の心に戸を立てないという性格はもちろんですが、何よりも妙光寺の檀信徒、会員の皆さんが他人に対してとても寛容であるということ、暖かい心で受け入れてくださったことに本当に感謝いたします。若者は未熟な存在であるかもしれませんが、新しい爽やかな風を運んでくれたような気がします。

韓国の留学生チョンさんは熱心な仏教徒でした。彼はこういいました。「日本のお坊さんは酒が飲めるからいいですね(彼は酒大好き) こうやってみんなで酒を飲みながらいろいろ話しができてこそ仏教の教えは伝わるし、人の気持ちも分かるのではありませんか？韓国ではお坊さんは酒は飲めないし気楽ではないので、日本のお坊さんはとても良いと思います。」なるほど、そういう考えもあるのね！と思った次第です。

# ▲ 行事案内 ▼



＊秋のお彼岸中日法要 九月二十三日（火曜・祭日）

午前十時半 安穩廟法要

十一時 彼岸会中日法要

昼 十二時 おとき

午後 一時 住職法話

どなたでもゆつくり静かにお参りいただけます。おときは当日受付でお申し込みください。

＊お彼岸経に伺います

お盆に伺えなかったお宅に日時をお知らせして、住職と鎌田が伺います。

＊お会式、戒名授与式 十一月三日（月曜・祭日）

午前十一時 お会式、戒名授与式

昼 十二時 おとき

午後 一時 法話

準備の都合上、事前のお申し込みをお願いします

あ  
と  
が  
き



ゲリラ豪雨など天候のおかしな夏が過ぎ、さわやかな秋がやってきました。この前田植えだと思っていたのがもう稲刈りの季節です。本当に月日の過ぎるのが早く感じられます。寺の忙しい時期を終えひと段落したと思ったらもうお彼岸が目前で、慌ててこれを書いています。間に合うかどうか・・・過ぎてから届きましたら申し訳ありません。

今後も行事が続きますが、一泊修行の再開は？東京の日帰り参拝が楽しかったのでぜひまた、身延山の五重塔完成でお参りしたい、等々の声をいただきます。検討していますのでお待ちください。

小川